

有効成分；アテノロール
剤形；錠剤
含量；25mg

溶出試験法；本品1個をとり、試験液に水900mLを用い、溶出試験法第2法により毎分50回転で試験を行う。溶出試験開始30分後、溶出液5mL以上をとり、孔径0.45μmのメンブランフィルター又は孔径20μmのポリエステル繊維を積層したフィルターでろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別にアテノロール標準品を105で3時間乾燥し、その約0.05gを精密に量り、水に溶かし、正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、吸光度測定法により試験を行い、波長275nmにおける吸光度 A_{T1} 及び A_{S1} 並びに250nmにおける吸光度 A_{T2} 及び A_{S2} を測定する。

本品の30分間の溶出率が75%以上のときは適合とする。

アテノロール($C_{14}H_{22}N_2O_3$)の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_s \times \frac{A_{T1} - A_{T2}}{A_{S1} - A_{S2}} \times \frac{90}{C}$$

W_s ：アテノロール標準品の量(mg)

C ：1錠中のアテノロール($C_{14}H_{22}N_2O_3$)の表示量(mg)

アテノロール標準品；日本薬局方外医薬品規格に規定する。

有効成分；アテノロール
剤形；錠剤
含量；50mg

溶出試験法；本品1個をとり、試験液に水900mLを用い、溶出試験法第2法により毎分50回転で試験を行う。溶出試験開始30分後、溶出液5mL以上をとり、孔径0.45μmのメンブランフィルター又は孔径20μmのポリエステル繊維を積層したフィルターでろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別にアテノロール標準品を105で3時間乾燥し、その約0.05gを精密に量り、水に溶かし、正確に100mLとする。この液10mLを正確に量り、水を加えて正確に100mLとし、標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、吸光度測定法により試験を行い、波長275nmにおける吸光度 A_{T1} 及び A_{S1} 並びに250nmにおける吸光度 A_{T2} 及び A_{S2} を測定する。

本品の30分間の溶出率が70%以上のときは適合とする。

アテノロール($C_{14}H_{22}N_2O_3$)の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_s \times \frac{A_{T1} - A_{T2}}{A_{S1} - A_{S2}} \times \frac{90}{C}$$

W_s : アテノロール標準品の量(mg)

C : 1錠中のアテノロール($C_{14}H_{22}N_2O_3$)の表示量(mg)

アテノロール標準品；日本薬局方外医薬品規格に規定する。

アテノロール 100mg/g ドライシロップ

溶出試験 本品の表示量に従いアテノロール ($C_{14}H_{22}N_2O_3$) 約 0.5g に対応する量を精密に量り、試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験開始 15 分後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μm 以下のメンブランフィルタ - でろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液を試料溶液とする。別にアテノロ - ル標準品を 105 で 3 時間乾燥し、その約 0.05g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100mL とする。この液 10mL を正確に量り、水を加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、吸光度測定法により試験を行い、波長 275nm における吸光度 A_{T1} 及び A_{S1} 並びに 250nm における吸光度 A_{T2} 及び A_{S2} を測定する。

本品の 15 分間の溶出率が 85% 以上のときは適合とする。

アテノロ - ル ($C_{14}H_{22}N_2O_3$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= W_S \times \frac{1}{W_T} \times \frac{A_{T1}-A_{T2}}{A_{S1}-A_{S2}} \times \frac{1}{C} \times 90000$$

W_S : アテノロ - ル標準品の量 (mg)

W_T : 試料の秤取量 (mg)

C : 1g 中のアテノロ - ル ($C_{14}H_{22}N_2O_3$) の量 (mg)

アテノロ - ル標準品 日本薬局方外医薬品規格を準用する。